

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和2年(2020年)12月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

通算187号
202012月号

熊本地域医療センター 理 念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

「友達の輪～Relayトーク 第8弾」…	P1～2
退任挨拶…	P2
新任挨拶…	P3
コロナ禍の栄養科…	P3
コロナ禍でのリハビリ業務の変化…	P4

「友達の輪～Relay トーク 第8弾」

たまのい 内科クリニック 玉野井 優水



水前寺内科循環器科の山口英治先生からのバトンを頂きました。山口先生とは、30年以上前の勤務先病院にて、同年代の多くの先生方とともに、臨床に励んだ経緯がございます。その後も家族ぐるみのお付き合いを

頂き、現在に至っております。

私は現在、南区域南町にて内科クリニックを営んでおり、呼吸器疾患を専門領域として診療しております。城南町および富合町の医師はこの4月までは下益城郡医師会に所属しておりましたが、この8月から熊本市医師会に所属、「富合城南」として新しくスタートすることとなりました。慣れない点が多々あり、諸先生方には、これからお世話になる機会が多くあるものと思われまます。どうぞよろしくお願いたします。

熊本地域医療センターの先生方には、ずっと以前

から現在に至るまで、大変お世話になっております。二十六、七年前のことになりますが、千場博先生には、私が当時勤務していた病院へお出で頂きまして、進行肺がん起因する癌性気道狭窄を有する患者さんへのEMS (expandable metallic stent) 留置治療を、数度に渡り行なって頂きました。千場先生の御指導のおかげで、その後は私たちの施設でも、癌の直接浸潤あるいは壁外性圧排による気道狭窄例に対するステント治療を行なうことができるようになりました。差し迫った気道閉塞の危険性を回避、QOLの改善を図るための選択肢であり、振り返ってみますと、この頃が癌性気道狭窄に対するステント治療の黎明期であったようです。しばらく経ちますと、製品化されたステントが幾種類も市場に出回るようになり、さらに治療の選択肢が増えていくこととなります。千場先生には本当にお世話になりました。

地域医療センター休日夜間出動協力医の担当日が、11月には巡ってきます。初めての担当日。何となく緊張感も出てきているようで、悪くはありません。どこまでお役に立てるかは分からず、不安といえはそのことに尽きるでしょうか。日常診療の場でも、救急対応を迫られる機会は案外と多いものですが、大きな病院での救急担当となりますと、開院する前まで勤務していた熊本市市民病院での救急当直以来のことです。俺が代わりに行くよ、と息子が心配そうに言うけれど、大丈夫、もう一度知識の整理をして

その日に臨むから、と心の中で答えています。

そんなこんなで日々は過ぎていきます。熊本市医師会理事会の場での真摯な議論の中に、自然、背筋が伸びてきます。地域医療センターが、いかに大事な病院であるかも、会議に参加する中で改めて良く分かりました。

趣味といえば、読書くらいのもので。大抵は仕事ばかりしています。時間を見つけては、上通並木坂にある馴染みの古書店に立ち寄り、気に入った本を選んで購入。中村汀女さんの句集や安永露子さんを始めとする歌人たちの歌集、時々掛軸等々、およそ断捨離とは無縁の世界。いつの間にか、クリニックの狭い資料室は書籍で溢れかえっています。

学生時代は空手道部に所属、思い描いていた学生生活とは随分かけ離れた学生生活となってしまいましたが、多くの先輩・後輩との素敵な出会いを提供してくれたことに今でも感謝しています。爾来、空手の魅力にとりつかれたままなので、今でも時々

型の練習などもやりますが、こればかりは思うような体さばきは出来ません。少し欲を出して練習しようものなら、股関節あたりが軋んできてどうにも良くありません。ホテル日航が建っている場所には、以前は「振武館」という、趣のある道場がその一角に建っていました。その振武館に通っては、師範のもとで空手の練習に励んでいたのですが、そんな若かった日のことなども時には思い出しながら、今は年齢相応の練習にとどめています。

紙面もつきますので、ここで、次の先生にバトンをお渡し致します。

竹下内科医院（中央区大江）院長 竹下政一先生に次回、お願い致しました。先生とは学生時代の同級であり、同じポリクリ班にて切磋琢磨した仲です。



退任挨拶



小児科
ともえだ りか
友枝 李果

令和2年4月より半年の間、勤めさせて頂きました。入局したばかりで力不足の点も多くございましたが、皆様に支えられて過ごすことができ感謝しています。また、短い間でしたが様々な患者さんとの出会いを経験することができ、かけがえのない時間を過ごすことができました。

半年間、誠にありがとうございました。10月からは福田病院のNICUに異動となり場所は変わりますが、これからも少しでも小児医療に貢献できますよう精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



研修医
みなみ まゆみ
南 真弓

昨年10月より、熊本地域医療センターにて初期研修をさせていただきました。初めての市中病院研修ということもあって、こちらに来る前は不安で一杯でしたが、実際に研修が始まると、どの診療科でも懇切丁寧にご指導いただき、お陰様で貴重な経験を沢山積むことができました。

この1年間、先生方やコメディカルの方々には大変お世話になりました。私がいわからなくて困っている時などには、さりげなくお声を掛けてくださったり、笑顔で助けていただいたりしたことも度々

で、とてもありがたかったです。

こちらのアットホームな雰囲気が居心地よくなっていたところだったので、異動は非常に寂しい思いがしています。10月からは再び大学病院に戻りますが、こちらで学んだことは、必ず未来の患者さん達のために活かしてまいりたいと思います。

末筆ではございますが、熊本地域医療センターの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

新任挨拶



小児科
おおむら
大村 れいか
怜佳

2020年10月より小児科専攻医として赴任しました、大村怜佳と申します。出身は宮崎県で、高知大学を卒業後に、熊本大学病院と熊本赤十字病院で初期臨床研修を行いました。その後は熊本大学小児科に入局し、今年度前期は熊本赤十字病院で勤務しておりました。

熊本赤十字病院に引き続き熊本地域医療センターも夜間・休日の小児救急診療を提供しており、幅広い疾患を経験できる環境で学べることを嬉しく感じています。小児科医として子供に携わることが出来、やりがいを感じる一方で、自分の未

熟さに苦悩する日々ですが、1つ1つのことを自分のものに出来るよう挑んでいきたいと思えます。

まだ赴任して間もないですが、熊本地域医療センターのスタッフは親切な方が多く、働きやすい環境だなと感じています。

何かと至らぬ点が多々あるかと思いますが、子供とご家族が安心出来るような医療を提供できるよう、また職員の皆様のサポートにお応え出来るよう精進して参りますので、御指導・御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

コロナ禍の栄養科

栄養科
うえだ
上田 ようこ
葉子



2020年2月前半、日本に停泊したクルーズ船内で感染者が急増したニュースが毎日のように伝えられ、人々に危機感が生じ始めました。

栄養科では患者さんの病状や体質に応じた食事を提供しており、どんな状況であっても食事栄養は途切れさせてはいけません。しかし、新型コロナウイルス感染がスタッフから発生した場合はどうすれば良いのだろう…という不安が沸き上がり、どのように対応していくかを常に考える毎日となりました。当時はテレビや新聞やネットの情報も発生と増加が伝えられることが多く、新型コロナウイルスとその対策については分からないことばかりで、栄養科内の調理スタッフや栄養士・管理栄養士、食器洗浄担当スタッフからも恐怖や不安を訴える声が高まってきました。このような状況下でできることとして、いつも通りに大量調理施設衛生管理マニュアルを遵守した上で、ICTをはじめとする院内の方針に従い、上司である笹原総合診療部長への報告・連絡・相談を心がける、日本栄養士会や厚労省や他施設の情報も得て業務へ生かすようにしました。そこから挙げられたおおまかな課題は①感染予防対策の徹底 ②

栄養科からの感染者発生時におけるBCP（事業継続計画）作成の2つです。①は標準予防策である手指衛生と、咳エチケットの徹底、体温や健康観察の記録、休憩室の換気、休憩時間をずらす、通常の清掃に加え人がよく触れる所のこまめな拭き取り清掃・消毒、日頃から3密を避ける等々を行っています。全国的に問題となったマスクやアルコール消毒液など衛生資材の不足にも悩まされましたが、節約や代替品を使って対応しました。②のBCP作成では、給食の確保、職員の確保、調理器具の確保、非常時の食事サービスや栄養科業務に関する制限、衛生資材・食品包装資材の確保等々について検討と準備を行いました。感染症に対するBCP作成は、一からの作業であり、思った以上に検討に時間がかかりました。国内での方針も少しずつ変わり、まだ完璧で無い部分もありますが、どのように対応するか見通しがついたのはとても良かったです。またコロナ禍において、基礎疾患がある方は感染した際の重症化リスクが高いと言われ、より自分の健康に気を使う方が増えてきたようです。栄養科からは病院食を通して患者さんの栄養状態改善や疾病治療のお手伝い、そして栄養指導を通して健康に関する有意義な情報を提供させていただきたいと思っています。

コロナ禍でのリハビリ業務の変化

リハビリテーション室 **和田 博暁** わだ ひろあき



平素より医師会の先生方にはご指導ご鞭撻して頂き大変お世話になっております。リハビリ部の主任の和田博暁と申します。今回はコロナ禍でのリハビリ業務の変化について報告させていただきます。

4月16日に特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、その数日後に当院職員の感染が確認されたことは記憶に新しいです。病院全体は勿論、各部門でも早急な感染対策が求められました。ICTの指示の下、出勤前後・昼の体温測定、休憩室の環境清拭と換気、平行棒やプラットホーム等の物品機器の環境整備を徹底し感染拡大防止に努めました。そして院内感染マニュアルに従いリハビリ部門独自の感染マニュアルの作成も行いスタッフへの周知を徹底しました。又、新型コロナウイルス療法安全管理でも推奨されている①疾患別リハビリから病棟担当制へ変更（病院内の縦横断を原則禁止）②リハビリ室の使用・移動の際の感染対策（マスク着用、ソーシャルディスタンス、時間指定、人数制限、室内換気および清掃）③標準予防策の見直し（特に手指衛生）を早急に実行しました。リハビリスタッフは基本的に1日数人～数十人の患者と接します。特に接触時間が長く患者との距離も近い

職種ですのでスタッフ自らが感染するリスクが高いこと、感染の媒体になるリスクもあるため適切なPPEの使用と行動履歴の入力が重要であります。

このように感染に対する不安が続くと高ストレス状態となり心身共に破綻してしまいます。院内の衛生・働き方改革委員会によるメンタルヘルス（ストレスアンケート、カウンセリング）は大変有り難く私も相談させて頂いています。部門単位ではスタッフの体調管理、ストレス・スティグマの対処も継続して行う必要があり、スタッフとの面談を継続して行っています。

With コロナがもたらした仕事・ライフスタイルの変化に不安・戸惑いは付きものですがSNSの利用（緊急連絡時・部門間での情報共有）、ZOOM・MessengerRoom・ハンアウト等のリモートを使用しての会議・研修会の参加を行い新しい仕事スタイルを身につけて地域医療に貢献していきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2021年1月25日(月)
19:00～20:00

会場／Web講演会

- ※12月の勉強会は開催いたしません。
- ※事前に申し込みいただければ少人数での直接参加もご案内できます。
- ※申し込み案内は熊本市医師会ニュースにてお知らせいたします。
- ※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

「胆嚢管内に結石が嵌頓する慢性胆嚢炎に対して術中総胆管損傷を認め、腹腔鏡下に減圧管を留置し改善した1例」

外科 小川 大輔 先生

②特別講義

高血圧治療の実臨床

Beyond the Guideline 2019 ～私の勝手気ままな降圧治療～

CC74：高血圧症

循環器内科 平井 信孝 先生

熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！
(平日9:00～17:00) **☎096-372-0600**
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

- Y お陰様で開始一周年の「友達の輪～リレートーク」、第8弾は玉野井先生にご寄稿いただきました。ありがとうございました。また、当院は、新型コロナウイルス感染症を克服した病院として報道されました。今回からシリーズで各部署から対策を含む現状について報告します。
- K 「富合城南部」より、早速、玉野井先生には、ご寄稿いただきありがとうございました。学生時代から現在も空手を続けていらっしゃるようですが、笑顔が素敵な先生からは、想像つきません。「押忍！」
- H 今回も多くの方にご寄稿いただきました。誠にありがとうございます。今月号より、当院各部署のコロナ禍の業務内容をシリーズ化し、掲載しています。同じ職員の私でも知らなかったことも書いてあり大変勉強になりました。